

## 令和3年度 伊南福祉社会本部事業報告

国は、2025年を目途に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を進めています。また、地域共生社会の実現に向けた取組では、社会福祉法人の役割も期待されているところです。

このような状況の中で、令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大対応に追われた1年でした。

法人本部の運営に関し、理事会を4回、評議員会3回（うち1回は書面決議）を開催しました。6月には役員・評議員とも新たな任期がスタートしました。

- 感染対策 利用者・職員へのワクチン接種対応、補助金活用によるPCR検査への対応等、変異株による感染防止対応の変更等、感染予防対策を進めました。
- 職員の処遇改善 国の介護職員処遇改善支援補助金を活用し、補助金対象外の施設・職員を含め全職員の月額給与に反映させることにしました。
- 法人現状分析 当期活動増減差額が伸び悩む中で、法人全体の経営状況を客観的に把握し、改善余地の洗い出しや他法人との比較を通じ、組織の状態を明らかにするため現状分析を委託し、その報告を踏まえ対応を着手しました。
- 新たな展開に向け 地域からの要望に応え療養通所介護事業開始に向けた事務所増築工事により新事業開始に向けた準備を進めることができました。
- 働き方改革対応 職員の労働時間の状況を客観的に把握するため勤怠管理システム稼働に向け準備を始めました

観成園では稼働率は前年並み、介護報酬改定もあり収入は増加したものの施設整備積立、水道光熱費等の増加により当期資金収支差額は昨年の約半分となりました。

フラワーハイツでは、超強化型老健として運営するも感染予防から利用を控える状況が続き介護保険収入が当初見込みに届かず、昨年度に引き続きの赤字決算となりました。

順天寮では、高い利用率を確保するも人材不足から加算を取れず事業活動収入は減少しました。しかし補助金等の活用により施設整備等積み立てを行ったうえで黒字を確保することができました。また指定共同生活援助事業所は、年間通し2棟8名定員体制と運営できました。

訪問看護ステーションでは、医療保険の訪問件数減少に伴い事業活動収入が減少し、新事業開始を見越した職員採用により人件費が増えました。全体では、新規事業開始に向けた設備投資により赤字決算となりました。

法人全体として自己資金による設備投資があり赤字決算となりましたが、新たな事業に向けた設備投資、経営の見直しに着手する年となりました。今後も新型コロナウイルス感染に伴う影響もあり厳しい状況が続きますが、顧客満足度の向上に向けた取り組みを今後も継続してまいります。

## 令和3年度 観成園事業報告

観成園は長期入所定員 110 人、短期入所定員 10 人の全室個室ユニット型の特別養護老人ホームであり、「安心・笑顔・その人らしさ」を理念とした介護事業を進めています。

### (1) 利用状況

長期入所の稼働率(定員に対する入所者数の割合)が 97.0%(前年度 96.6%)と前年度をわずかに上回ることができましたが、短期入所はコロナ禍での手控えもあって 91.6%(前年度 102.3%)と前年度を下回り、全体としての稼働率は前年度並となっています。また平均介護度も 3.6 とほぼ同じでした。

### (2) 収支状況

収入面では、総収入額が 5 億 94 百万円、前年比 5 百万円、0.9%の増となりました。利用状況が前年度並を維持できたなかで、令和 3 年 4 月に介護報酬改定(全体として 0.7%引き上げ)があり、介護保険事業収入が前年度比 1.0%の伸びとなったことが主な原因です。

支出面では、総支出額は 5 億 85 百万円で、前年比 14 百万円、2.5%の増となりました。

増加の理由としては、令和 3 年度から開始した施設整備等積立 5 百万円が 0.9 ポイントを占めているほか、水道光熱費の上昇 3 百万円、感染症対策関連費の増 1.9 百万円、人材紹介会社手数料の増 1.6 百万円が主なものです。投資的な部分では介護ロボット購入費 1 百万円等がありました。

人件費は令和 4 年 3 月に実施した処遇改善手当等の増加要因はありましたが、職員数が欠員のまま推移したこともあり前年度比 0.4%増にとどまり、人件費率は 64.1%(前年度 64.9%)に抑えられました。

以上の結果、収支全体では当期資金収支差額で 930 万円余の黒字となりましたが、黒字額としては前年度に比べ減少しています。

今後も健全で持続可能な施設運営に向けた経営努力を続けるとともに、入居者が安心して家庭生活の延長線上の暮らしができるよう質の高い介護サービスの提供に努めて参ります。

## 令和3年度 フラワーハイツ事業報告

老人保健施設は、介護保険法の中で、在宅復帰、在宅療養支援施設と位置づけられています。地域包括ケアの中核としての機能を求められています。昨今、「重度化予防、自立支援」を言ったことを目にします。

当施設は、多くの専門職が在籍していることが、大きな特徴となっており、要介護状態になってから、看取りに至るまで専門職が協同で支援できる体制が整っております。施設の特性を生かした支援を行います。

昨年度より、LIFE(科学的介護の推進)導入され、経験値に基づく支援から、科学的根拠に基づく支援が求められています。支援の質が問われています。ご利用者の、日常生活の動作評価、身体機能の評価などを、データで送ること、他の施設、他の利用者と比較ができるようになってきます。データを読み取り、分析することが必要になります。施設も評価される時代になります。

このような流れの中、利用者、地域のニーズに応えられるよう取り組んできました。

新型コロナウイルス感染症の感染は、収まる様子はありません。感染状況を見ながら、行事、レクリエーション、施設内の業務、利用者支援を工夫しながら行ってきました。

利用状況においては、長期入所は、3.2%増、短期入所は、17.3%減、通所リハビリテーションは、1.3%減、訪問リハビリは13.1%増、障害者サービスはほぼ横ばい、居宅介護支援事業（予防・介護給付含む）は、1.9%減となりました。

収入全体では、前年度比2.8%増の約1600万円増。在宅系の、短期入所、通所リハビリ、訪問リハビリはコロナ第六波のピーク時に利用控え顕著で居宅系の収入は、5.7%の減となりました。

収入総額は5億9千万円ほどで当初予算には届かないもの、昨年コロナ下での収入減から持ち直し、ほぼ例年並みの収入となりました。

支出においては、事業活動支出は、総額約6億円と前年比で大幅な支出増となりました。事業活動のおける支出では、燃料費（灯油代）が約2倍の支出、コロナ関連のマスク、フェイスシールド、手袋等の衛生資材支出増、人材紹介の手数料、厨房委託に係る退職金支出が主な内訳になっています。

固定資産関連支出は、ナースコールの更新、特装車の更新、パソコン関連物品の導入、更新が主な支出となっています。収入増、経費削減に取り組みましたが結果、今年度、2200万円ほど赤字の厳しい決算となりました。

施設も開設、30年を迎え、施設の老朽化、冷暖房設備、エレベーター等の大きな設備の更新が必要な時期となっています。器具、備品関連も使用年数が長い機器が出てきています。

計画的な設備更新計画による、設備・機器の更新を行ってまいります。昨年度より、経営コンサルタントの導入で、利用者の数的管理、営業の工夫を行ってまいります。収入増の取組に努めるとともに、経費削減を図り、経営の安定に努めてまいります。

## 令和3年度 順天寮事業報告

生活保護受給者で居宅生活をおくることが困難な人が、安心して暮らしながら自立に向けた訓練を行う施設である順天寮では、中長期計画の見直しを図り、令和3年度は主に以下の取り組みを行いました。

- (1) 限られた資源（人・施設・金）の中での最適な支援
  - ① 事業を常に収支ベースで検討する
  - ② 業務の標準化、合理化のために、情報システムの導入
  - ③ 改築に向けた調査・研究
- (2) 課題解決力の向上
  - ① 課題に対するカンファレンスの持ち方の改善
  - ② 個別支援計画の改善
- (3) 地域移行事業の拡大
  - ① 障害福祉サービス、生活困窮事業等の収支ベースでの検討
- (4) コロナ対策
  - ① ワクチン接種
  - ② PCR検査・抗原検査
  - ③ 県セーフティネット補助金による対策備品等の購入

昨年に引き続きコロナ渦にあって、利用者の楽しみである行事等の中止や縮小する中で、全職員が知恵を出し、工夫しながら生活の場としての機能を維持し、1年間一人の感染者もなく過ごすことができました。

経営的には、措置費収入では加算による収入減等により前年比約400万円の減収となりましたが、IT導入補助金、コロナ関連の補助金等の収入もあり事業活動収入の合計額は2億5600万円となりました。

施設整備関係では見守りシステムの導入、体育館照明のLED化工事等を行いました。

今年度も1000万円の施設整備積立金を行ったうえで、880万円の当期資金収支差額を計上することができました。

引き続き、組織・施設の機能強化を図りながら、地域福祉の向上に努めてまいります。

## 令和3年度 指定共同生活援助事業所事業報告

グループホーム事業は、救護施設順天寮の地域移行事業として、日中は主に順天寮の通所事業を利用し、夜間はアパートタイプの個室で居住し共有スペースで世話人が作った夕食を提供している障害福祉サービスで平成29年8月より定員4名から開始し、昨年度に「ハレルヤ」を開所し現在2棟8名定員体制で運営しています。

年間を通じて7名の利用を継続し、当初予算の99.6%を達成することができ、事業活動資金収支差額は、昨年の144万円から385万円に順調に推移しております。

今年度より世話人会議を定期的に行い、研修や意見交換を図りながらより良いサービスが継続できるように取り組みました。

平成29年度の開設に当たり順天寮会計から繰り入れた300万円に対して毎年50万円ずつ繰り戻しておりましたが、残金150万円全額を今年度繰り戻しました。また、順天寮との兼務で行っている職員の人件費負担分として100万円を負担したうえで、135万円の当期資金収支差額を計上することが出来ました。

引き続き、順天寮の地域移行支援事業の拡大と地域ニーズに沿えるように努めてまいります。

## 令和3年度 伊南訪問看護ステーション事業報告

新型コロナウイルス感染症の猛威からの出口がまだ見えない中、在宅生活を支えるサービスとして、必要な対策、医療の知識を講じつつ、状況の変化に合わせた対応で利用者、家族に寄り添ってきました。

また、今年度は新規事業療養通所の開設準備、職員の世代交代に向けての体制整備の年と重なり、さらなる職員間のチームワークが必要な年となりました。

訪問状況では、延べ訪問件数は前年度比微増です。介護保険では14%増でしたが医療保険では15%減という結果です。居宅介護支援利用者数については3%増となっています。看護の内容については、看取りに関わった件数が45件と6件減でしたが、自宅での看取りは36件と2件増となっています。

経営的には、収入が減り新事業の職員体制整備の人件費の支出が増えたこともあり収支差額が昨年度のおおよそ半分となっています。今年度は新事業の建設費用等に高額の支出もあり結果的に赤字となっていますが、新しい事業展開に向けた投資と考えています。

委託事業として認知症グループホームへの訪問は定着しており、緊急時の対応、看取りの相談も受けています。

児童発達支援事業所への訪問は、放課後等デイ等利用の児へのケアや送迎、集団活動参加の手伝い等行っていましたが、令和4年度の新事業療養通所介護ナーシングデイの開設に伴い、今年度をもって終了としました。訪問は終了しましたが、今後も地域の重症心身障がい児・者を支える同じ仲間として連携をとってまいります。

新事業の「ナーシングデイすまいる」も職員体制を整えつつ、開設に向けて準備も進んでいます。

主治医や相談員との連携をさらに図り、訪問看護との一体化で利用者や家族の皆様に安心して利用していただけるよう努めてまいります。